



©Masami Adachi



桑原あい 「一生に一度と思うぐらいの機会。その瞬間をぜひ目撃して欲しい」

スティーヴ・ガッド(Dr)、ウィル・リー(B)という名プレイヤーを迎えた新作を携え、このトリオでのステージを6月に控える桑原あい。2012年の鮮烈デビュー以降、気鋭ピアニストとして輝かしいキャリアを邁進するなか、実は3rdアルバム完成直後からスランプに陥っていたという。1年半にも及ぶ長いトンネルを抜け出すきっかけとなったのが、2015年【モントルー・ジャズフェスティバル】で出会った巨匠クインシー・ジョーンズからの「君の音楽はジャズだから、そのまま進みなさい」との言葉だった。そして、2013年【東京JAZZ】での初対面から「いつか一緒にやろう」というスティーヴの誘いにも臆していた彼女が「今なら出来る気がする」と敬愛する2人の胸に飛び込み実現した本作。クインシーの背中を「歌った」『The Back』などオリジナル5曲にカバー4曲が並ぶ、「すべては必然だった」この重要作からライブについてまで、真摯に語ってくれた。

——タイトル『Somehow, Someday, Somewhere』にはどういう思いが？

「アルバムに収録もされている(1957年初演ブロードウェイ・ミュージカル)『ウエスト・サイド・ストーリー』の楽曲『Somewhere』の歌詞の最後の一節なんです。世界の中で、私は今どこにいて、何を、どう風生きてるのかっていうのを2人の先輩(作者のレナード・バースタイン/スティーヴン・ソンドハイム)を鏡に見つめたかったんです。私はこの曲が世界で一番好きで、だからこそ今までできなくて。でもスティーヴとウィルとならやりたいと。曲はもちろん、歌詞が本当にすごくて、それを書いたのが27歳の時のソンドハイムで、グサツとくるメッセージを持ってらるんですよね。私自身にピッタリくるし、今の私の課題でもあって。この一節をどうしても使いたかったんです」。

——憧れの2人とのトリオは幸せな半面、覚悟が必要だったのでは？

「そうなんです。もうすごく緊張して、アメリカに着いてからずっと吐いてたくらい(笑)。でも2人が『リラックスして良いんだよ。あいのリーダー作だし、あいは素晴らしいから』って、そ

ういう空気を作ってくれました。コンフォートな状態じゃないと本当に良い音やナチュラルで真っ直ぐな音が出てこない、大事な音が聴こえてこないから言葉でも言ってくれていたし、それは2人の音を聴けばわかるので。例えば、ブレイクする時でも、普通はアイコンタクトで「止まるよ」ってやるんですけど、そんなのをしなくても一斉に止まれました。ビックリして、耳で分かるってこういうことだなど。空間を聴くというか、目か使わなくても通じ合える時ってあるんだって。スランプ中に、それまでの自分を追い込んで作る音楽がエゴだったことに気づいて、そんなエゴを捨てて凝り固まった自分を削ぎ落とすというか、ナチュラルになれるようにやってきたことが全部ここで繋がった感じで、ドラマを見るようでした」。

——それが音源にも現れていて、シンプルで優しくも研澄まされている感じで。

「今まではどれだけ弾くか、音をどれだけ使うかみたいなのもあつたんですが、今回はシンプルに、歌っていうのをすごく意識しました。歌をどれだけピアノで表現できるかって。音楽ってやっぱり歌なんだろうなって、すごく思ったし、そこはこれまでと全然違う部分だと思います」。

——個人的にはオリジナル曲の『All life will end someday, only the sea will remain』が好きで、スリリングな演奏に、年齢やキャリアを超え、正三角形を見るように音楽人としての3人の対等な関係が伝わってきます。

「私もすごく好きで、ウィルとのスクヤットもあって……。この曲、初日に録ったんです。1日目の3曲目、ラストに。これをして、「あつ、大丈夫だ」って思いました」。

——この曲を含め、本当に生演奏が楽しみですが、ご自身にとってライブとは？

「ライブに来てくださるお客さんの、お金もそうだけど、時間とか、その人の寿命の一部をもらってるわけですよね。そう思うと、色んな命が集まっている場所なのかなとも。その一部をちゃんと楽しませなきゃって思いもあるし、私自身も楽しいんだけど、ただ楽しいというだけじゃ収まらなく

て、やっぱり怖い時もいっぱいあって。ピアノは物凄く正直な楽器なので、私の心も全部映ってしまうような、弾くには毎回、勇気がいるんです。「ピアノ=私」という音を鳴らしたいと思えば思う程。そんな風に色々考えてしまうんですが、結局演奏する時はもう自分の持っているものを全部ポンッと出すしかないので、ライブは全力で生きる場所なんだと思います」。

——今回のライブに向けたメッセージを。

「スティーヴとウィルと演るのは、もう一生に一度かなって思うぐらいの機会。ただでさえ音楽、特にジャズはその瞬間でしかないものなのに、こんな人達と一瞬一瞬を作れるっていうのは物凄く大きな出来事だし、それをぜひ生で目撃して欲しいなって。聴いてくださる方々の気持ちに寄り添える部分が絶対あると思うんです」。

——8月にはソロピアノ・ライブも決まっていますが、昨年初めてソロピアノ・ツアーを行われたんですね。

「ピアノと向き合いたかったっていうのが大きいかな。ピアノへの意識を変えたかったっていうのもあるし、ツアーをやることで変わったこともある。そのツアーが終わった後にピアノをより好きになったとも言えるので、ピアノともっと友達になるためにはさらにツアーをした方がいいなって。(内容は)基本的にセットリストは決まらななんです。「これ弾きたいから弾きます」って、自分だけで作れるのがトリオとの違いですね。」

5th Album

『Somehow, Someday, Somewhere』
out now!!



★ 桑原あい with スティーヴ・ガッド&ウィル・リー
“Somehow, Someday, Somewhere tour”
6月21日(水) ヒルボードライブ大阪

★ ソロピアノツアー 2017
「Plays “Somehow, Someday, Somewhere”」
8月2日(水) 広島 Live Juice
8月31日(木) 大阪 Flamingo the Arusha